

令和7年度  
新潟県病害虫発生予察速報第9号  
(ねぎのシロイチモジヨトウの発生状況)

1 発生状況

- (1) 防除所が実施した秋冬ねぎの巡回調査では、6月後半調査以降被害株が確認され、8月後半まで被害株率は平年比やや多い～多いで推移している(図1、3、4)。
- (2) フェロモントラップによる誘殺数は、聖籠町真野(園芸研究センター)では平年比やや少ないが、胎内市菅田では8月中旬から急増し、平年を大きく上回っている(図2)。
- (3) 気象庁発表の向こう1か月予報では、気温は高いと予報されており、増殖や食害が助長されると考えられる。

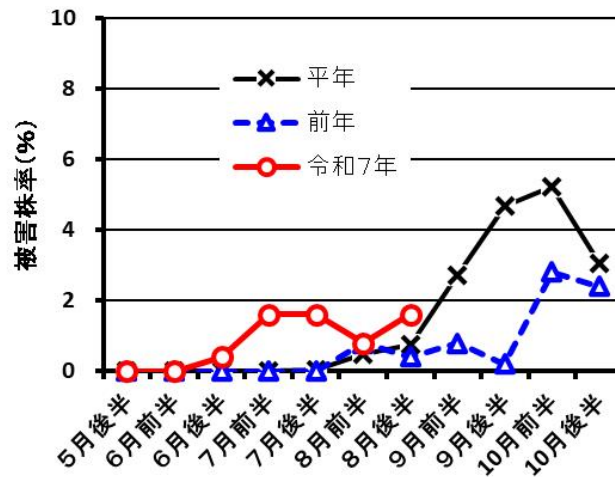


図1 ねぎほ場におけるシロイチモジヨトウ被害株率<sup>注)</sup>の推移

注) 防除所巡回調査5地点(村上市、胎内市、新発田市、新潟市北区及び西区のそれぞれ1地点)の平均値

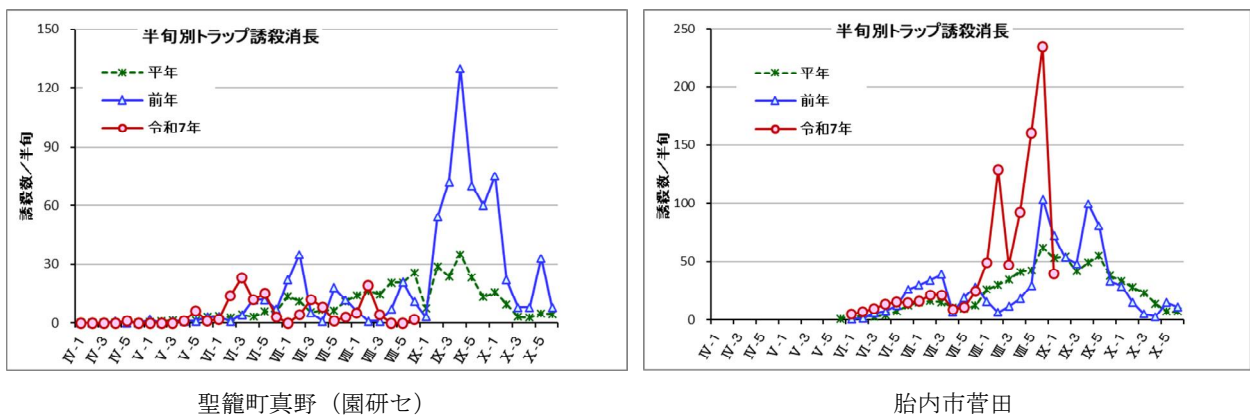


図2 フェロモントラップ誘殺数の推移<sup>注)</sup>

注) 胎内市菅田は、誘殺数を調査期間で除して日平均誘殺数を計算し、半旬単位に再計算したデータをプロットした。



図3 シロイチモジヨトウの食害



図4 シロイチモジヨトウの中齢幼虫

## 2 対策

- (1) ほ場ごとに発生動向を注視する。特に幼虫の発生に注意し、ほ場を見回って卵塊や若齢幼虫の早期発見と除去に努める。また、ほ場周辺の雑草は発生源となるので除去する。
- (2) 幼虫の齢期が進むと薬剤感受性が低下する。更にねぎでは葉の内部に潜り込んで食害するため、薬剤がかかりにくい場合がある。そのためほ場をこまめに見回り、若齢幼虫期に株全体に薬液が十分かかるようていねいに散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を防止するために、作用機構の同じ薬剤の連用を避ける。RAC コード (<https://www.croplifejapan.org/labo/mechanism.html>) を確認し、異なる薬剤をローテーションで使用する。
- (4) 本種は寄主範囲が広いので、ねぎ以外の野菜類、花き類にも注意を払う。